



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

患者さんの事

[当法人理事]

すみとも内分泌クリニック

住友 秀孝 [医師]

先日、糖尿病研究会にて伊藤 眞一先生より、「いくつになった」と聞かれ、「62才になりました」と返答。「まだ若い、自分は80才超えた」とお話あり。故近藤 甲斐男先生・伊藤 眞一先生の馬力には本当に頭が下がります。

さて、1987年(昭和62年)、生来全く縁のない立川で小児科医になるため初期研修を開始。色々あり内科医へ。研修2年目後半、立川第1相互病院で糖尿病研修開始。指導医は宮川 高一先生。兵隊は私1人。病棟40床のうち、20~25名主治医(現在では考えられませんが)。日中は指導医不在、2年目後半で裏の病棟医長(指示切れ・処方切れ・検査伝票記載もれ・足処置)。午後外来が終わると宮川先生登場。看護師さんの申し送りを中断させて一緒に温度板・血糖記録表とインスリン指示簿を持って回診。多数指摘あり。その後、宮川先生は「研究会行ってくるわ」と退勤。黙々と研修継続。思い出に残る1人目の患者さん入院。50才台、インスリン非依存型糖尿病・増殖網膜症・腎症・足壊疽。急速に片眼視力障害進行、非常勤眼科医(杏林大・東京女子医大のトップランナー)診断不明。最終的にカンジダによる真菌性眼内炎と診断(やっとな症例報告が開始した頃)。硝子体手術実施もほぼ手動弁。この患者さんの診断・治療が糖尿病ワールドへの入り口となった。

2人目の患者さん、50才、インスリン非依存型糖尿病・B型慢性肝炎増悪にて紹介入院。消化器内科より肝生検とインターフェロン治療をやれとの指示あり。強化インスリン療法(RRRN)でもインターフェロン治療中の発熱に伴う血糖変動のコントロール困難(現在のインスリン療法なら何とかなっただかも)。各種自己抗体乱れ飛び(この頃は文献なし)。その後セロコンバージョン・セロネガティブとなりHBVDNA感度以下へ。CTにて肝腫大・脾腫消失。血小板10万→20万まで上昇。いずれ肝癌発症かと考えるも、その後32年間通院。SMBG継続+年齢相応のインスリン療法と経口糖尿病薬内服。重症低血糖入院歴なし。92才時自宅転倒・大腿骨骨幹部骨折受傷。後輩達がOP実施退院。「足弱ったから施設にゆくわ、あんたもしっかりやりなさい」と。親子程の年齢差のある若い頃の私に命を預けていただいた事に感謝。またHbA1c-7.5~8.0%を長期に維持する事の意義を教えてください本当に感謝。

3人目の患者さん。50才、倦怠感・低ナトリウム血症にて他院反復入院、意識障害悪化し転院。下垂体負荷試験にてシーハン症候群診断(分娩時出血から随分時間たっており非典型的経過)。コートリル・チラーヂンS内服にて改善。以降、全国の温泉を行脚。副腎不全増悪入院歴なく通院継続中。1990年より長期にわたる経過を見せていただいた事に感謝。先日、「あんたもだいぶ年とってきたわね」とお話あり。患者さん・看護師さんを含むコメディカルの皆様・諸先生方に育てていただいた事に深く感謝。あと何年やれるかな？

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 運動指導について正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります)

1. 神経障害を有する場合、足部の傷、水疱発赤の有無を確認することが重要である
2. 失敗したときには、更に運動強度を高める
3. 増殖網膜症の患者には、活動性のものでは激しい運動はさせない
4. 糖尿病性腎症第4期の患者には、運動強度の目標を5~6 METsとする
5. 単純網膜症の患者には、バルサルバ型運動が推奨される



報告

第23回糖尿病予防講演会

日時:令和6年8月31日(土)
ルミエール府中

[当法人理事] 東京医科大学八王子医療センター 松下 隆哉 [医師]

第23回糖尿病予防講演会が2024年8月31日にルミエール府中で開催されました。本講演会は、東京都糖尿病協会、一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワークの主催、後援団体との共催で行われました。今回のテーマは「糖尿病性腎症の予防とその進展阻止」に焦点を当て、腎臓保護の観点から糖尿病管理の重要性を啓発しました。

講演プログラムでは、まず女子栄養大学の高橋 大悟先生が「糖尿病性腎症予防・改善のための食事」をテーマに、腎臓保護に有効な食事の選び方を説明しました。続いて、東京医科大学八王子医療センターの松沼 悟先生が「薬で腎臓を守り、薬からも腎臓を守る！」という講演を行い、腎臓に優しい薬の選択やその使い方についてわかりやすく解説しました。最後に、日本大学の阿部 雅紀先生が「糖尿病性腎症の重症化予防とその治療法」を紹介し、最新の治療法や生活習慣改善の重要性を強調しました。

本講演会は、糖尿病性腎症の進行を防ぐための具体的な対策や、適切な食事療法・薬物療法について幅広く情報を提供し、参加者の理解を深める良い機会となりました。講演終了後も多くの参加者から質問が寄せられ、腎臓の健康管理に対する関心の高さがうかがえました。今回の内容を日常の診療や生活に取り入れ、糖尿病性腎症の予防に繋げることが期待されます。



高橋 大悟先生



松沼 悟先生



阿部 雅紀先生



報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第77回例会

日時:令和6年9月12日(木)
オンライン

[当法人評議員] 川越内科クリニック 川越 宣明 [医師]

2024年9月12日(木)に一般社団法人糖尿病支援ネットワーク 第77回例会がZoom形式で行われた。東日本、能登半島地震での経験、起こりうる可能性のある南海トラフ地震を想定、テーマを“糖尿病と災害～天災は忘れた頃にやってくる～”とし、災害時における糖尿病治療や備え、実際の食事、排泄の問題等を特別講演「災害にどう備えるか」として、当法人糖尿病災害対策事業担当理事 宮川 高一先生から講演いただいた。またミニレクチャー「能登半島地震へ派遣の経験と薬局在庫の状況」を株式会社大和調剤センター薬剤師 森 貴幸先生から、「災害時に備えた食事の工夫—能登半島地震を通じて—」を多摩センタークリニックみらい 管理栄養士 一神 秀介先生からそれぞれ発表いただき、ディスカッションが行われた。

特別講演では宮川先生より、当法人は2012年以来継続して災害啓発活動をし、①糖尿病患者、メディカルスタッフに対する災害講演会を年2回開催、阪神、東日本、熊本震災に遭遇した1型糖尿病患者の体験を聞く催しも開催。②「糖尿病災害時サバイバルマニュアル」を165,500部刊行。③災害時インスリンが手に入るよう、ストックを地域の保険薬局へ依頼。④2次医療圏毎に東京都が設立した「糖尿病医療連携検討会」の啓発活動も実施してきたこと。「糖尿病災害時サバイバルマニュアル」について、災害にあった時どうしたらいいかノウハウを掲載、災害への備え、発災直後、発災後数日間、どのようなことがあり、何を準備したらよいかをお話いただき、特にインスリンがないと命に危険が生ずる1型糖尿病の普段からの備え、知るべきインスリン治療の方法などについても触れていただきました。また先生自身がDMATとして参加した被災地での写真を交えての講演は排泄の問題など衛生面での困難さなどリアルな状況が伝わってきて、今後の災害には一人一人がしっかりと日頃から備えておくことがいかに重要かを痛感させられ、非常に意義のある例会となりました。



第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会

令和6年10月5日(土)～6日(日)

仙台国際センター

[当法人会員]

公立昭和病院

西條 雅美 [薬剤師]

第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会が、10月5日(土)、6日(日)の2日間の日程で、仙台国際センターで開催されました。コロナ禍でここ数年は、オンライン開催やハイブリット開催などでしたが、5年ぶりの完全集合型の開催で、全国より薬剤師を中心として912名の参加があったようです。テーマは「くすりと人をつなぐ新しい患者支援の輪 共に踏み出そう未知の奥へ」です。また今回の学術集会では、糖尿病のある人へのスティグマ(偏見・差別)を払拭するため、糖尿病から「ダイアベティス」への呼称変更案に賛同すること、また呼称変更を通じて糖尿病の正しい疾患概念と治療の啓発を行い、糖尿病のある人が自分らしく生きていくことができる社会作りを支援していくことを、「東北宣言」として宣言されました。

多くの興味深い演題の中から、今回はシックデイカード(図1)についてご報告させていただきます。日本くすりと糖尿病学会では、2022年の第10回学術集会にてシックデイカードを発表しましたが、今回アンケート調査を実施し、より使いやすいカードへ改訂されました。このシックデイカードの特徴は、糖尿病手帳やお薬手帳にはさんで携帯でき、シックデイ時の薬の服用量を食事量に合わせて患者自身が対応できる点、薬剤師による糖尿病薬の適正使用のための継続指導、多職種でシックデイに対する共通認識を持つことができる点などがあげられます。



(図1)日本くすりと糖尿病学会シックデイカード

シックデイカードは自施設で作成、または日本くすりと糖尿病学会のカードを使用、JADECの糖尿病指導リーフレットと組み合わせて使用している施設、まだ使用していない施設など、様々な施設があります。シックデイカードの活用における問題点として、医師と他の職種や病院と保険薬局との連携が困難だったり、薬剤変更時の対応やマンパワー不足ですべての患者にシックデイカードを渡すことが難しい点などがあげられます。講演の中では導入方法として、まずは薬剤部内や病棟でシックデイカードの周知、糖尿病患者の外来担当者との打ち合わせ、近隣の薬局への説明会などが紹介されていました。しかしすべての患者に導入するのは難しいため、外来ではまず低血糖を起こしやすい患者、すでに起こしたことがある患者を選んで徐々に導入していくことも必要です。日常業務に追われ忙しい中、新しく取り組んでいくのはとても大変ですが、スタッフにやる気をだしてもらう方法として、担当者に成功事例をお互いに発表してもらおうなどの取り組み事例もありました。

この学会を通して、糖尿病治療薬と血糖の管理だけでなく、「糖尿病のない人と変わらない寿命とQOL」を達成するために、薬薬連携や多職種連携、チームで関わることがとても大切であることを、改めて学ぶことができました。

読んで単位を獲得しよう

答え 1, 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

- 1: ○ 神経障害は下肢末梢を中心とした防御知覚の低下や運動神経障害による足部変形などを有することが多く、熱傷・外傷等で足壊疽を起こすリスクを予防する観点から定期的な観察が必要である。
- 2: × 失敗した際は起きた状況や気持ちを話し合い、予防策を共同で立てることが望ましい。患者の目標よりも高い運動強度に設定することは、むしろ失敗を繰り返す可能性があり望ましくない。
- 3: ○
- 4: × 腎症4期(GFR区分:G4)では3～4METs以下の運動強度に調整することが望ましい。
- 5: × パルスサルバ型運動は息こらえを伴う運動であり、どの病期においても避けることが望ましい。

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返答にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

《 1月より、2025年度年会費納入が始まります 》

2025年度の年会費納入が、1月14日(火)より可能となります。
会員継続される方は、ご自身のマイページにアクセスいただき、3月31日(月)までにご納入をお願いします。

納入期間

2025年1月14日(火)~3月31日(月)

納入方法

マイページ「年会費納入のお願い」より



研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業 共催・後援事業 その他

◆ 第25回 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

申込必要

テーマ：『1型糖尿病の診断』

開催日：2024年12月7日(土) 15:00~17:55

会場：Zoom / 立川相互病院 2階講堂 (JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分)

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください (12/6締切)

問合せ：サノフィ(株) (担当：山本) メール：Moriyoshi.Yamamoto@sanofi.com

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

★日本医師会生涯教育制度：2単位3カリキュラム申請中

参加費
無料ハイブ
リッド

◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第27回研修会

申込必要

テーマ：『CGMの進歩とAutomated insulin Delivery(AID)の評価は?』

開催日：2024年12月10日(火) 19:20~21:00

会場：立川相互病院 会議室 (JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分)

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください (12/6締切)

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

◆ 第54回東糖協多摩ブロック糖尿病教室

申込必要

テーマ：『糖尿病の薬物療法について、聞いてみませんか?』

開催日：2024年12月21日(土) 14:00~16:00

会場：Zoom / パルテノン多摩 第3・4会議室 (「多摩センター駅」下車 徒歩5分)

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください (12/15締切)

問合せ：(株)三和化学研究所 (担当：安東) TEL：03-3232-0571

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

参加費
無料ハイブ
リッド

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/ Email:info@cad-net.jp

編集後記



認定看護師の実習指導者を体験しました。認定看護師になりたい人へ！と、熱く関わっていたのですが、1人の学生さんが何やらおかしい…どうも自ら志願ではなく、自施設で薦められ来たのだそう。辛そうに見えた理由に納得…。療養相談では意識している、個々に合わせた関わりが不足していたと反省、その人に合わせてどんな時も！と再認識しました。
(広報委員 久保 麻衣子)